

ことこなめおおがめ  
「古常滑大甕」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（考古資料） 昭和 62 年 1 月 27 日
- 所 在 地 千曲市大字上山田 3509 番地 1 城山史跡公園内展示室
- 所 有 者 千曲市教育委員会
- 概 要 常滑古窯  
寸法 口径 55 cm、現器高 71.5 cm、最大径 91.5 cm、器高平均 70.7 cm
- 時 代 鎌倉時代後期から室町時代初期
- 公 開 城山史跡公園、二の郭兵舎内で展示

あ ち はんとう とこなめ  
知多半島の常滑を中心に製作された古常滑の大甕です。

こうえんぶ  
口縁部は N 字形に折り返され、肩の張る大きな甕です。肩の上部に一条、肩の下部に三条の押印文が行われていて、焼成は非常に良好です。底部を欠いていて、復原されています。現在までに発掘された古常滑甕としては大変大きなものです。

あらかまよりあい  
知多半島の常滑で製作された大甕が、新山寄合の地籍から出土したことは注目されます。また、寄合は村上氏の一族「寄合氏」が、居館を構えたところと伝えられています。

